

あなし 阿奈志神社(奈胡)で伝統の舞を復活!
宮司 吉村 定浩 さん (42歳・奈胡)



きらり おばま 人

宮司を務めて19年目。神社では毎年例祭を行っています。子どもによる舞の奉納はしばらく途絶えていました。伝統の継承を思い、4年前に『豊栄舞』、今年は『浦安の舞』を復活させました。

「昔、地域の神社は子どもたちの交流の場所でした。近年、少子化などで、子どもが行事に参加することも少なくなってきました。これらを担う子どもたちには何かしてもらおうことで、地域も活性化すればと思っています」と話します。

舞を復活させたきっかけを聞くと、

住む人が誇りと愛着を持てるまちにしたい

「最初は、娘が日舞を習っていたので、舞を奉納してほしいという気持ちもあつたと思います。ほかの子どもたちにも参加してもらえて、みんなと一緒に取り組むことが楽しくなりました」と、父親の顔ものぞかせます。

福井市まで足を運んで、舞の指導を仰ぎ、現在は自ら指導にあたります。

「毎月1回の舞の練習は子ども同士のコミュニケーションの場にもなっています。親子の会話のきっかけや、昔踊ったことがあるお年寄りとの世代を超えたつながりも生まれています」

舞い手の最年長者は現在高校3年生。来年卒業を迎えます。

「変動の時を迎えています。舞い手と地域がある限り、続けていけると思います。地域で育った子が、地元に残ってくれるのが一番ですが、例え都会に出て、神社で舞った経験を通してふるさとを思い出してほしいです」。

「住む人が誇りと愛着を持てるようなまちにしたいです。お金や物質だけではなく、地域での心のつながりに意味を見いだしたいですね。長年培われてきたものは受け入れやすいので、伝統行事などを通して、そのことを伝えていくことが神社の役割だと思っています」と、地域への思いも熱く語ります。

穏やかな表情ながら、その眼はまっすぐまちの未来を見えています。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人(グループも歓迎)」を紹介してください。
市民協働課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線373

協働のまちづくり情報BOX (vol. 8)

協働は職員意識改革から!

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線372

今回は、4月に開催した協働の基本指針職員説明会とあわせて実施した職員アンケートについて、市民協働課の担当リーダーがお知らせします。

- 「協働」についての理解は「という質問では、38%の職員が「あまり・ほとんど理解していない」、「協働を意識して仕事をしているか」では、半数以上の職員が「あまり・ほとんど意識していない」という回答で、大変ショックを受けました。
- しかしながら、「協働のまちづくりの必要性は」では、ほぼ100%の職員が「必要・どちらかといえば必要」、「地域活動への参加は」では、84%の職員が「住民として参加すべき」との回答がありました。
- 「市民との信頼関係を構築すべし」「手探りでもまず協働に取り組むべき」などの積極的な意見も多く、同輩である職員を心強く思いました。
- 今後は、職員用協働ハンドブックの作成や研修会の開催など、職員へのサポートも市民協働課の重要な役割の一つであると考え、積極的に取り組んでいきます。
- また、協働が大変分りにくいという声も聞かれるため、市民説明会を通して、分かりやすく説明していきたいと考えています。
- 協働では、私たち職員もゼロベースのスタートとなりますが、まさに今協働の旗振り役を担う職員意識改革が求められており、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という気概を見せる時と考えます。



協働のまちづくり基本指針
市民説明会・講演会
【土曜】6月30日(土)
【土曜】13時30分~15時30分
【土曜】働く婦人の家

山柳

若狭湾川柳舎

断言に負けた私の電話口
千種二丁目 安藤ふみ枝

断言は明日にしよう今日は寝る
小浜酒井 清水 久子

いつまでも花ある人と見るドラマ
堀屋敷 白石 恵子

短歌

おばま尚翠短歌会

「安産」と書かれし我の腹帯を
三十年経て娘に巻きてをり
池田 上林やすこ

大雪の厳しさに耐へ芍薬は
濃き紫の蕾つけをり
大谷 中尾 和美

晩年まで書の筆握りし亡き父の
形見の筆で夢追ひかける
加茂 島中美智恵

俳句

小浜市俳句作家協会

蔓の先庭木とらへて灸花
駅前町 上前 永子

かつて田の蒲の荒地となりけり
三分一 小畑 公

病窓の梅雨空雲に覆はれり
千種二丁目 幸田せい子

広告

広告

広告

広告

広告

広告